# 文書館ニュース

もんじょかん

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives
No. 50

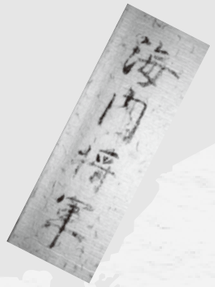
contents

■海賊衆能島村上家文書……2/3
■県行政の足跡を未来に伝えるために……4
■平成27年度の新収諸家文書を紹介します……5
■高句麗広開土王碑拓本の調査……6
■古地図を片手にまちを歩こう事業への協力…6
■徳山毛利家文庫「幕閣」発給文書の公開…7
■文書館動物記……7
■ＵＲＬが新しくなりました……8

# 海賊衆 能島村上家文書

このたび、当館所蔵の「能島村上家文書」一九九通が、過所船旗（表紙写真）とともに国の重要文化財に指定されました。

能島村上氏は戦国時代の瀬戸内海地域の覇者として大きな力を持ち、さまざまな局面でキャスティングボートを握ってきました。ここでは、当家の文書や当館所蔵の海賊衆・水軍関係史料から、彼らの活動の一端を紹介します。



その島（能島）には日本最大の海賊が住んでおり、そこに大きい城を構え、多数の部下や地所や船舶を有し、それらの船は絶えず襲っていた。（中略）

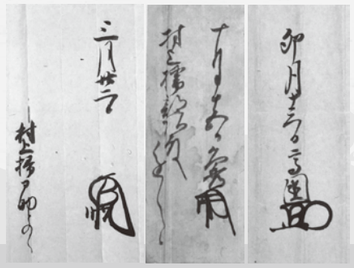
彼は、怪しい船に出会った時に見せるがよいとて、自分の紋章が入った絹の旗と署名を渡した。それは彼が司祭に対してなし得た最大の好意であった。（フロイス「日本史」）

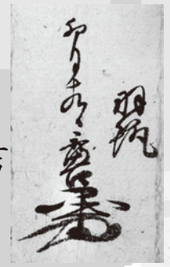
## 海賊衆

往古より海上の儀は能嶋よりの掟をもって治め申すにつき…（「譜録　村上図書元敬」）

瀬戸内海は近畿地方と九州、ないしアジア諸国との流通の大動脈でした。能島村上氏を中心とする海賊衆はその流通の秩序の保証者としての一面をもち、その秩序を乱そうとするものには実力をもって攻撃を加えました。

戦国時代にはたくさんの大名たちが海賊衆に関心を寄せ、彼らの力を借りたり、また彼らに対して力を及ぼそうとしました。しかし、海賊衆たちは戦国大名たちの、いわば「境界領域」に盤踞（ばんきょ）する存在でしたから、その試みは容易に進みませんでした。





織田信長○

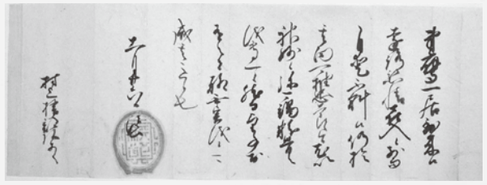
○羽柴秀吉

○豊臣秀長

○堺

（右から）細川高国　松永久秀　足利義輝

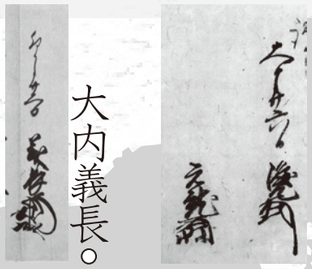
## 多極外交のなかで



能島村上氏が織田信長に鷹を贈ったことに対する信長の礼状

能島村上家文書の多くは、瀬戸内海を取り巻く大名たちとの虚々実々の交渉を伝えています。やがて彼らは毛利氏への臣従を深め、ついに豊臣秀吉政権の成立によって活動の場を失い、海上での権益を失いました。





毛利元就○・隆元

大内義長○

○因島

能島

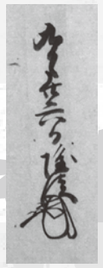
○来島

赤間関○

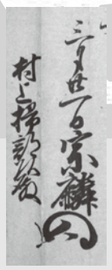
○三田尻

○河野通直

○三好実休



松浦隆信○



大友宗麟○

能島村上氏の系譜と事蹟を藩に提出した「譜録」

藩主による合武三島流上覧の記録

村上氏が、近世の海上活動で用いたと思われる「采配」

能島村上氏は安芸国と伊予国の間に連なる芸予諸島を拠点とした、いわゆる「三島（さんとう）村上氏」の一つで、能島（今治市宮窪）を本拠としていました。

南北朝時代から有力な海上勢力としての活動が確認でき、天正年間の村上武吉・元吉父子の時代に最盛期を迎えました。その間、西日本の諸大名の一定の影響下で多極外交をくりひろげ、ほぼ独立を維持しました。

豊臣政権が成立すると独立性を失い、最終的には毛利氏の家臣団に組み込まれて周防に転じましたが、毛利氏の船手組頭として、引き続き海を舞台に活動しました。

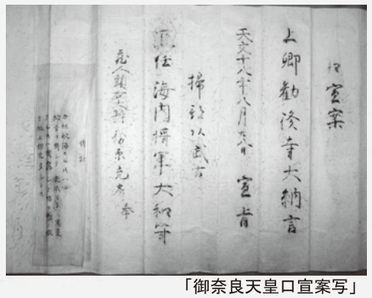
表紙に写真をあげた「過所船旗」は「上」の字を墨書した平絹仕立てで、怪しい船や入港時に示す一種の「通行証」としての機能を有していたと考えられており、「まねき」の形状を今に残す唯一の例です。「天正玖（九）年四月廿八日」の日付で村上武吉が安芸厳島神社の社家である祝師（ものもうし）氏に発給したものです。

国指定となった文書群は、当館の村上家文書のうち、村上氏が一族をあげて毛利輝元・松寿丸（後の秀就）に臣従を誓った慶長四年（一五九九）を下限とする一九九通です。

## 国王の特許状

日本には、往昔の国王たちの特許状によって、当初から、全海賊と海国の最高指揮官をもって任ずる二人の貴人がいる。（フロイス「日本史」）

能島村上家文書には、宣旨や将軍の御教書等の「特許状」が数通伝来しています。彼らを「海内将軍」に任じる等、もとより偽文書ですが、これらの文書は実際に海上に携行され、かれらの行為の根拠として広く認識されていたことが、下の口宣案写の「伝記」等からうかがえます。



「御奈良天皇口宣案写」

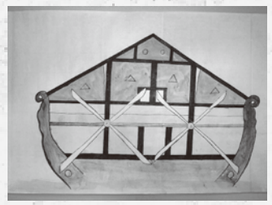
口宣案
上卿勧修寺大納言
天文十八年八月廿八日　宣旨
掃部頭武吉
宣任　海内将軍大和守
蔵人頭右大弁　藤原充房　奉

伝記
吾祖、航海スルトキハ必綸旨ヲ携シテ光威ヲ示ス。異事アルトキハ披露シテ妨ヲ禦グ。依テ紙上摺禿多シト云

## 村上氏の周辺史料

近世に入り、能島村上氏は萩藩の船手組頭として三田尻（防府市）にあり、海とのつながりを保ちました。村上武吉の長男元吉の流れをくむ村上図書家と、武吉の次男景親の流れをくむ村上一学家がそれにあたり、当館所蔵の「譜録」等で近世における活動の概略を知ることができます。

また近世には「野島（能島）流」「一品流」「合武三島流」といった水軍の流派が数多く生まれました。なかでも「合武三島流」は江戸で数多くの門人をもった下松出身の兵法学者・森重都由がたてた流派で、三島村上氏に伝わる海賊古法を軸に、合武流ほか数流の奥義を集成して編んだものといい、毛利斉熙は文化9年（1812）、村田清風の建議を入れて合武三島流による海上演習を萩で上覧しています。



能島村上家伝来の「車輪船」の図や「浮嚢（うきぶくろ）」とされる図も残されていますが、これらは近世の水軍流派の中でうまれたものだと考えられます。

# 県行政の足跡を未来に伝えるために

## ―公文書の保存と公開への取り組み―

### □引継ぎ・保存・公開をすすめています！

当館では、毎年県庁で作成・収受され、保存期間が満了した公文書の中から、後世に残すべき価値があると考えられる公文書を引継ぎ、保存しています。現在、概ね一九七〇年代までに完結した公文書を公開しています。

平成二十七年度には、平成十三年（二〇〇一）に開催された「山口きらら博」に関する公文書（総数七二〇件）を引継ぎました。

さらに公文書の引継ぎをすすめるため、学事文書課主催の「情報公開・個人情報保護実務研修会」において、県職員に対し文書館の役割や公文書引継ぎの実務について説明を行っています。

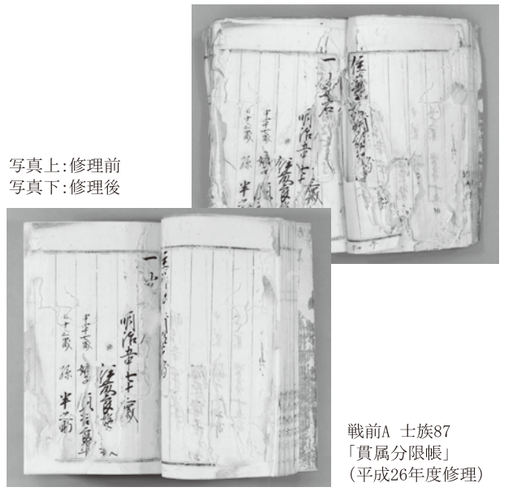
なお、一九五〇年代以降に完結した公文書は、一部を除き別館書庫に保存しています。閲覧にあたっては、個人情報等の確認のため、申請から一〇日間の審査期間を設けています。

1960年代公文書の保存状況

### □修理を進めています！

当館所蔵の公文書のうち、昭和二十二年（一九四七）三月以前に完結した一三，五四九点は、「山口県行政文書」として国の重要文化財に指定されています。

このうち、利用頻度が高く損傷が進んでいるものについては、平成二十三年度から文化庁の国庫補助事業により修理を行い、二十七年度末までに十八点の修理を終えました。近代公文書には様々な料紙が使われており、また修理事例も少ないため、文化庁と協議を重ねながら、慎重に修理を進めています。



写真上：修理前
写真下：修理後

戦前A　士族87
「貫属分限帳」
（平成26年度修理）

写真のように、虫損により開閉も困難だった公文書が、修理によって見事に甦りました。

### □保存に関する調査と会議を行っています！

当館では平成二十二年度より、「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を毎年開催しています。さらに平成二十六年度からは、平成の大合併時に県下の全市町村を対象に当館が行った市町村役場文書所在状況調査の追跡調査を併せて実施しています。

平成二十七年十月三十日に開催した第六回会議では、下関市立大学木村健二教授に、歴史研究者の視点から、県内に残る旧市町村役場文書の価値についてお話いただき、次いで当館専門研究員が現在実施中の追跡調査について中間報告を行いました。その後、参加者からは現在抱える課題の報告をはじめ、活発な意見が交わされました。

第七回会議は、今年八月末、一般参加者も募り、開催する予定です。

第6回会議の開催状況（平成27.10.30、於：県庁）



# 平成二十七年度の新収諸家文書を紹介します！

平成二十七年度、一二家・一，九〇三点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中から三つの文書群を紹介します。

### ■増野家文書

増野家は、江戸時代、萩藩永代家老益田家の上級家臣として活動した家です。明治期には、浜田県吏員や小学校教員も務めています。

文書の内容は、江戸時代における同家の活動に関わって蓄積された文書と、明治期以降における同家の活動に関わって蓄積された文書に大別されます。前者には、主家益田家の法令類や、益田家から与えられた御奉書・御意書、益田家へ提出した願書類、増野家が益田家中の目代役・加判役・御側頭人役・目付役・組頭役などの諸役を務めたことに関わる文書、増野家の給地とその経営に関わる文書などがあります。萩藩永代家老益田家臣の家文書としては、質量ともにまとまった文書群といえます。

なお本文書群には、増野家と同じく、益田家の上級家臣であった栗山家の伝来文書もまとまって含まれています。

### ■山野家文書

山野義忠は、大津郡深川町（現長門市）出身で、山口歩兵第四十二連隊所属の陸軍兵士です。曹長として日中戦争に出征し、各地を転戦、昭和十三年（一九三八）山東省南部掃討作戦に参加中に戦死しました（死後、少尉に特進）。

文書の内容は、陸軍兵士山野義忠に関わる文書、および遺族に残された文書で構成されます。前者は、中国に出征した義忠が、日本にいる妻に宛てた手紙（軍事郵便）が多数残る点が大きな特徴です。ほかには義忠の雑記帳（ノート）、彼の叙位叙勲に関するもの、写真、肩章・襟章・戦地に携行していたピストルケース（№98）も含まれています。また、後者の遺族関係では、昭和十五年に遺族に送付された靖国神社合祀・臨時大祭に関する案内状などがまとまって残っています。

### ■安本家文書

安本家は下関市在住で、大正期に一家六名が農業移民としてブラジルに移住した歴史を持っています。文書の内容は、明治～昭和戦前期における安本家の活動に関わるもので構成されます。

特筆すべきは、大正期におけるブラジル移民に関する文書が含まれている点で、渡航許可証、移民契約書、旅券など移民に係る一連の文書が残っています。

安本家文書 №14 日本帝国海外旅券

ほかには、明治期、山陽鉄道の厚狭・赤間関線路敷設工事に際し安本家が土地提供をしたことに対する山陽鉄道の礼状、四国八十八ヵ寺からの勧誘状ほか諸々の広告類、絵はがきなどがあります。

■平成27年度の新収諸家文書

| №. | 文書名 | 点数 | 主な文書の年代 | 文書群の特徴（関連地域、個人・家の歴史、就任役職等） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 阿野家文書 | 5 | 中世～近世 | 水利関係 |
| 2 | 佐伯隆収集史料（追加） | 588 | 近世～近代 | コレクション／永田家（戸長・議員）／大本家（神官）等 |
| 3 | 曽祢家文書 | 80 | 中世～近代 | 萩藩士（大組） |
| 4 | 田中家文書 | 37 | 近代 | 教科書 |
| 5 | 野村家文書 | 55 | 近世～近代 | 徳山藩士 |
| 6 | 原田家文書 | 1 | 近世 | 美祢郡細見絵図 |
| 7 | 福永家文書（追加） | 2 | 近世～現代 | 萩藩堅田家臣 |
| 8 | 増野家文書 | 865 | 近世～近代 | 萩藩益田家臣 |
| 9 | 三坂圭治文庫（追加） | 13 | 近代～現代 | 研究資料／図書 |
| 10 | 元森家文書（追加） | 38 | 近世～現代 | 奇兵隊士 |
| 11 | 安本家文書 | 98 | 近代 | ブラジル移民 |
| 12 | 山野家文書 | 121 | 近代～現代 | 陸軍軍人 |

## 「高句麗広開土王碑拓本」の調査が行われました

あまり知られていませんが、当館は高句麗広開土王（好太王）碑の拓本（全四面）を所蔵しています（県史編纂所史料2173）。この拓本については、これまで詳しいことが分っていませんでしたが、去る平成二十七年二月十二日に、武田幸男氏（東京大学名誉教授・朝鮮古代史）を中心とする調査グループが来館し、初めて本格的調査を行いました。

調査では、着墨状況や用紙法などが詳細に検討されました。その結果、当館の拓本は石灰を塗布して作った「石灰拓本」であること、推定される作成時期は一九〇〇年初頭からほぼ十年間であることなどが分かりました。使用されている紙（縦九〇×横五九センチ）は、同じ類型に属す他の拓本の用紙に比べるとかなり大きく、独特なものだそうです。

また、拓本作成時には用紙を有効活用するため、未使用部分は切除し別の箇所に利用されたと推測されていましたが、このたびの調査でこのことがはじめて実証されたということです。

## 「古地図を片手にまちを歩こう」事業への協力

現在山口県では、平成三十年の明治維新一五〇年に向け、幕末維新をテーマとする観光キャンペーン「やまぐち幕末ＩＳＨＩＮ祭」を官民一体となって展開しています。

そうした中、平成二十九年秋から、「古地図」と「ウォーキング」を組み合わせた地元ガイドによるまち歩き、「古地図を片手にまちを歩こう」の全県実施が計画されています。当館が、これに向けたガイド研修に協力することになりました。

というのも、当館は、教員を対象に開催している講座（文書館活用講座等）の中で、絵図を使ったフィールドワークを早くから取り入れてきました。また平成二十一年には、文書館開館五〇周年記念事業のひとつとして、県下四会場で「絵図を片手にまちを歩こう」を開催しました。こうした絵図を使ったまち歩きの経験が注目され、研修ガイドの講師として白羽の矢が立ったのです。

十一月と十二月に開催された研修会では、当館専門研究員が県下各地のボランティアガイドのみなさんを対象に、当館の絵図を使ったまち歩きの取り組みを紹介したり、絵図の見方や活用方法、まち歩きの留意点などについてアドバイスしました。

また、講義後は、実際に絵図を片手に、絵図と現地を見比べながら歩く研修も行いました。

## 間もなく公開！ 徳山毛利家文庫「幕閣」発給文書

当館には、毛利家文庫（萩藩）と、徳山毛利家文庫（徳山藩）という、二つの藩の藩政文書があります。そのため、それぞれの藩の調査はもちろん、両藩の比較・検討や、本藩・支藩の関係を解き明かすこともできるのです。

これら藩政文書は計画的に整理を進め、閲覧・利用に供してきました。平成二十四年に毛利家文庫遠用物（近世後期）八，九三三点、二十五年度に徳山毛利家文庫「絵図」二二四点を公開しました。

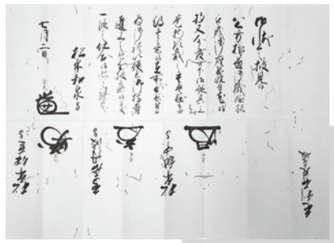
現在、公開に向けて整理作業を進めているのは、徳山毛利家文庫の内、江戸幕府からもたらされた文書群です。この中心は、幕府の老中をはじめ、臨時におかれた大老や、将軍の側近である側用人（そばようにん）が、徳山藩主に宛てて出した奉書（ほうしょ。主君の意を受けて臣下が自らの名で発給する文書）と呼ばれる文書です。差出人には、教科書でお馴染みの田沼意次や松平定信、水野忠邦などが登場します。また、最近話題の真田家（信濃国松代藩）も、松平定信の子息が養子に入ったことから、江戸時代後期には老中を出しています。真田幸貫（さなだゆきつら）がその人で、彼の文書も含まれています。

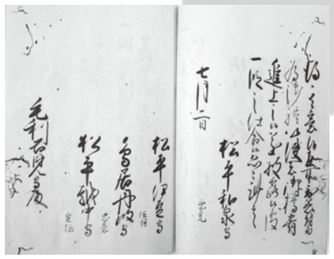
江戸幕府の老中たちが発給する奉書の内容は、返礼が中心です。例えば、季節ごとに送られた献上品や、将軍やその家族の誕生・結婚・出産・死去などに関する進物や見舞などへの礼状です。そのほかに、大名から参勤交代の時期についての問い合わせに対する返書などもあります。

なお、奉書には年代が記されないため、発給年の特定にはもう一手間必要です。幸い、徳山毛利家文庫には大量の記録が残っており、その中に、徳山藩が幕府と取り交わした文書を書き留めた「公儀事」という記録のグループがあります。この「公儀事」を調べることで、多くの奉書の年代比定が可能です。

こうした作業を進めながら、「幕閣」発給文書として近日中の公開を目指しています。

乞う、ご期待！





上は江戸幕府老中連署奉書、下はその後半部分を写した徳山毛利家文庫「公儀事」47の寛政二年（一七九〇）七月二日条。「公儀事」の記事から年代がわかった一例です。この時の「公儀事」の記録者は、一行の文字数までもそっくりに写しています。

## 第一〇回中国四国地区アーカイブズウィーク 文書館動物記 ～書庫に棲む動物たち～

第一〇回中国四国地区アーカイブズウィークを平成二十七年六月二日（火）～七日（日）に行いました。テーマは「文書館動物記～書庫に棲む動物たち～」。動物という切り口から、文書館資料の魅力を紹介する試みでした。

中世の大名大内氏に関わる亀、鷹などの動物たち、江戸時代、伊勢参宮をした長州犬、山陽道を通り江戸に向かった象、「尾かづき」「せんねんど」「おっとせい」「件（くだん）」などふしぎな生き物、昭和戦中期に増産されたウサギに関する資料、昭和二十五年頃、山口県が作成した狂犬病予防ポスターなど幅広い時代の資料を展示紹介しました。

また歴史探究講座では、「大内氏をめぐる動物たち」「『産物帳』の中の動物たち」と題する講演を文書館と県立山口博物館の職員で行いました。

書庫に眠っていた動物たちを、多くのみなさんに、見て知っていただくことができました。

文書館ニュース No.50

編集／山口県文書館　発行／平成28年(2016)3月30日　印刷／瞬報社オフリン印刷株式会社

# 平成 28 年3月からウェブサイトのURLが新しくなりました。
# http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/
# サイト構成も一部変更しました。

## 新しいサイト構成です。

### 山口県文書館について
- 山口県文書館の歴史
- 山口県文書館の業務
- 文書館ニュースPDF
- 研究紀要総目次
- 山口県文書館の刊行物

館の歴史と活動を紹介

紀要・ニュースはすべてPDF化!

### 文書を探す方へ
- 所蔵文書概要
- 所蔵文書リスト
- 所蔵文書検索
- 利用案内
- 閲覧室カレンダー
- よりよい調査のコツ
- Q&A
- 画像の掲載・放映手続き
- 調査用ツール

所蔵文書のデータベース

「文書掲載等承認申請書」のダウンロード

### 教育に携わる方へ
- 古文書学習支援
- 学校教育支援
- アーカイブズガイド(学校教育編)

毎年増えてます!

### 保存に携わる方へ
- 公文書保存の取り組み
- 地域資料保存の取り組み
- 保存関係規程・法令など

### 行事・講座案内
NEW!
- アーカイブズウィーク
- 資料小展示
- 古文書基礎講座
- 古文書専修講座
- 古文書実践講座
- 授業で使える文書館活用講座

過去のポスター・展示解説資料を見ることができます。

解読した文書をアップしてます。

### デジタルアーカイブ
- 絵図・地図
- 写真・絵はがき
- ポスター・リーフレット
- 文書・記録
- 高画質画像ダウンロード
- 当館蔵の指定文化財

画像資料はここ!

はTOP画面から直接入ることができます。

## 山口県文書館

〒753-0083　山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116　FAX083-924-2117　http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/

**利用時間**

【開館時間】火曜日～日曜日　9:00～17:00

【閉　館　日】月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。
　閲覧室へは2階へお上がり下さい。
※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧下さい。